

Topics 福島は、原子力機構が行っている福島対応などの活動を紹介するものです。

いわき市内のプールで除染の実証試験

～チルドレンファースト活動～

原子力機構は10月25日、いわき市内にある市立桶売保育所のプールで超高压水による除染技術の実証試験を行いました。いわき市からの除染の相談、要望を受けて実施したものです。当日はプールサイドの舗装面を1㎡ずつ4ブロックに分け、100、150、200、250MPaという高い圧力をかけた水を吹き付けて洗浄し、吹き付けた水は同時に吸引回収し、放射性物質除去の水処理を行い再利用します。

その結果、除染前には444cpm～1049cpmあった表面の汚染が、除染後には45～116cpm（低減率は80～94%）まで低下しました。これは、ほとんど汚染のない状態です。

この保育所はこの夏もプール開きができませんでしたが、来夏の再開に期待しています。



上は除染作業の様様

右上は除染前、右下は除染後のプールサイドの様様



なお原子力機構は昨年7月から9月にかけて、福島県内にある7つの幼稚園や小中学校のプールの除染の実証試験を実施しました。そこから得られた知見を手引書にまとめて、関係者への技術の移転、除染活動への展開を図っています。

- ・学校プール水の除染の手引き

<http://www.jaea.go.jp/fukushima/josentebiki.html>



チルドレンファースト活動

国の原子力災害対策本部は昨年8月に、「除染に関する緊急実施基本方針」を決定しました。その中で、子どもの線量低減に優先的に取り組む、いわゆる「チルドレンファースト」を行うことを示しました。

これを受けて原子力機構は文部科学省に協力して、学校等が行う除染活動に放射線や除染の専門家を派遣し、技術的な助言や指導等を行っています。学校の先生や保護者、地域の住民の方々が協力して子供の生活環境の放射線量低減に向けた活動を行うことは、安心の醸成や地域コミュニティの再生にもつながる重要な取り組みです。原子力機構ではこの取り組みに、除染専門家として協力しています。

その取り組みの初回は、平成23年12月3日に行いました。旧緊急時避難準備区域にある南相馬市の太田小学校では、地元の人たちと先生たちが校舎とその周辺の除染作業を行うこととなり、原子力機構ではその際に助言や指導を行うとともに、いっしょに除染作業を行いました。これらの作業により、同学校はここで授業を再開することができるようになりました。

このほか小・中学校や保育所の遊具の除染指導や、通学路を除染する方法の講習会の開催、プール除染に際しての助言、プラスチックシンチレーションファイバーを使用して面的な汚染状況を調査するなど、これまでに15件の取り組みを行ってきています。

また、これらの活動を通じて得られた知見をもとに、遊具除染の手引きを作成しました。

<http://www.jaea.go.jp/fukushima/pdf/josentebiki/2012-0910.pdf>



地元の人といっしょになって
除染作業を行っている模様（上）

